

# 「財務応援Ai 公益法人会計」注記対応版 概要(Ver.2.4)

「財務応援Ai 公益法人会計」Ver.2.4で予定されている対応内容についてご案内致します。  
尚、商品リリースの際、機能等が若干変更される可能性がありますので、予めご了承ください。

## 1. データの利用について

### バージョンアップの対象バージョン・・・Ver.2.2以降

上記のバージョンからデータ移行が可能です。

#### 従来バージョンとのデータの互換性

財務応援 Ai 公益法人会計 Ver.2.4のデータは、従来バージョンのデータと互換性がありません。

(バックアップ/リストアやファイル変換ツールでやり取りすることはできません)

バージョンアップを行うと、従来のバージョンのデータが自動的に Ver.2.4用にコンバートされます。

Ver.2.4用にコンバートされたデータは、Ver.2.4より前のバージョンがインストールされているPCに戻すことはできません。

#### ブランチとのデータ互換性

財務応援 Ai ブランチとの連動を行っている場合で、財務応援 Ai 公益法人会計を Ver.2.4にバージョンアップする場合は、ブランチについても、Ver.2.4にバージョンアップする必要があります。

#### 概要のバージョンの表記について

「Ver.2.4」のように小数点以下2桁目は省略して記載しています。正確なバージョンはシステム起動後のタイトルバーに表示されます。

## 2. システムの対応内容

### 注記作成に対応

新公益法人会計基準の「財務諸表の注記」および「収支計算書の注記」に対応いたします。

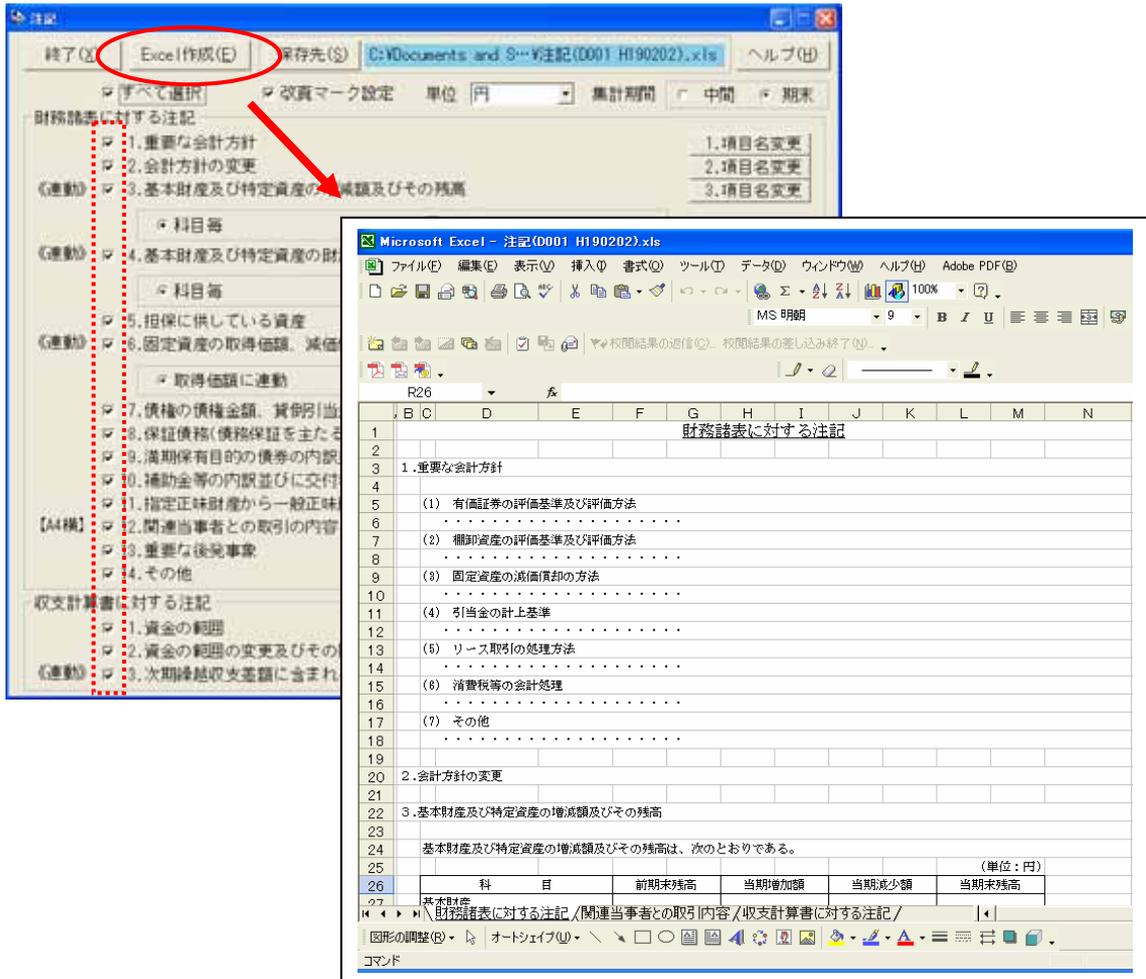
Ver.2.4にバージョンアップすると、新公益法人会計基準のデータの[事業別・予算・決算]タブに、[37.注記]メニューが追加されます。

(新公益法人会計基準のデータとは、期首年月日の右側に「新」と表示されているデータのことです)



注記は、Microsoft Excel で作成します。

作成する注記のチェックボックスにチェックをつけ、＜ Excel 作成 ＞ ボタンを押します。



上記画面で＜項目名変更＞ボタンを押すと、注記の項目名を変更したり、注記の表の上下の文言を変更することができます。

(例:「1.重要な会計方針」の項目名変更画面)



### 注意

注記を作成するコンピュータにMicrosoft Excel 2002以上 (Excel 2002、Excel 2003) がインストールされている必要があります。Excel 2007は動作保証外です。

## システムで対応する注記について

システムでは、次の注記に対応します。

### ・財務諸表に対する注記

- 1.重要な会計方針
- 2.会計方針の変更
- 3.基本財産及び特定資産の増減額及びその残高《連動》
- 4.基本財産及び特定資産の財源等の内訳《連動》
- 5.担保に供している資産
- 6.固定資産の取得価額、減価償却累計額及び当期末残高《連動》
- 7.債権の債権金額、貸倒引当金の当期末残高及び当該債権の当期末残高
- 8.保証債務（債務保証を主たる目的事業としている場合を除く）等の偶発債務
- 9.満期保有目的の債権の内訳並びに帳簿価額、時価及び評価損益
- 10.補助金等の内訳並びに交付者、当期の増減額及び残高
- 11.指定正味財産から一般正味財産への振替額の内訳
- 12.関連当事者との取引の内容（A4横）
- 13.重要な後発事象
- 14.その他

### ・収支計算書に対する注記

- 1.資金の範囲
- 2.資金の範囲の変更及びその影響
- 3.次期繰越収支差額に含まれる資産及び負債の内訳《連動》

《連動》と記載されている注記では、財務応援Ai公益法人会計のデータから、所定の分析区分を持つ科目の残高を自動連動いたします。

## 自動収支仕訳作成時の行摘要複写機能の追加

新公益法人会計基準のデータで、伝票の登録時に自動収支仕訳作成が行われる場合に、収支仕訳の元となった仕訳の行摘要を、収支仕訳の行摘要へ自動的にコピーする機能を追加します。

行	借方科目/借方事業	金額/消費税	貸方科目/貸方事業	金額/消費税	期日/証No./摘要
1	529 旅費交通費	30,000	101 現金	30,000	出張旅費
2	4523 旅費交通費支出	30,000	938 支払資金	30,000	出張旅費
3					

## 収支計算書科目の元帳出力への対応

新公益法人会計基準のデータにおいて、収支計算書科目の元帳を出力できるようにします。それにともない、\*印の元帳について収支予算を出力するかどうか指定できるようになります。

- ・[日常業務]タブ：「51.総勘定元帳」\*、「52.補助元帳」「53.合計元帳」\*
- ・[事業別・予算・決算]タブ：「11.事業別元帳」\*、「12.事業別補助元帳」、「13.事業別合計元帳」\*

元帳の相手科目は「支払資金」固定です。

## 消費税区分「有価証券等の譲渡」の追加

消費税区分「125 有価証券等の譲渡」を追加します。

また、「11 売上」、「14 固定資産の売却」、「21 売上（簡易・複数）」、「24 固定資産の売却（簡易・複数）」の消費税区分候補一覧の中に「125 有価証券等の譲渡」の消費税区分を追加します。

### 3. 連動可能なオプション製品のバージョン

財務応援 Ai 公益法人会計 Ver2.4と連動可能なオプション製品は次のとおりです。

- ・財務応援 Ai 支払管理 Ver.1.2
- ・財務応援 Ai 入金管理 Ver.1.2
- ・財務応援 Ai 公益法人会計 Ex リンク / 経営資料集 Ver.2.0

### 4. 動作環境

システムの動作環境は以下のとおりです。

使用環境	スタンドアロン	3 ユーザー版以上のネットワーク版	
	2 ユーザー版、プランチ	クライアント	サーバ (*6)
OS	Windows® 2000 Professional SP3 以上(*1) Windows® XP	Windows® 2000 Server SP3 以上 Windows Server™ 2003	
メモリ	128MB 以上	256MB 以上	
CPU	お使いのOSが推奨する環境以上		
データベース (*2)	MSDE 容量制限 2GB	SQL Server 2000 SP3 (*3)	
HDD (*4)	空き容量 500MB 以上	空き容量 500MB 以上	空き容量 1GB 以上
ディスプレイ	解像度:1024×768 ドット(小さいフォント)以上 Windows XP の場合は標準フォント 表示色:high Color(16Bit)以上		
ブラウザ (*5)	Microsoft® Internet Explorer 5.0 以上		
バックアップ装置	DAT ドライブを推奨 (*7)		
プリンタ	上記の対応 OS で使用可能な A3 対応レーザープリンタ (ポストスクリプト対応プリンタは除きます。)		

(\*1): 2 ユーザー版では Windows 2000 Server SP3 以上も動作保証します。

(\*2): Microsoft SQL Server (または MSDE) はバンドル版です。バンドル版は財務応援 Ai 以外で使用するできません。

(\*3): 財務応援 Ai 公益法人会計 Ver2.0以降の新規版をご購入されて継続利用されている場合は、SQL Server 2000 SP4 となります。

(\*4): 管理ファイル(登録データ)の容量は除きます。

(\*5): 対象ブラウザがセットアップされていないと、財務応援 Ai をインストールすることができません。

(\*6): サーバの基本ソフトが Windows Server 2003 の場合は、サーバにおける操作を、財務共通処理の <データベース管理> および <ライセンス設定> に限定させていただきます。

Windows 2000 Server の場合は、SP3 以上になっている必要があります。

(\*7): バックアップに十分な容量であれば、基本ソフトで使用可能なその他の装置でも構いません。

### 5. プロダクトIDについて 1 ユーザー版およびプランチ版のみ

プログラムのセットアップ(インストール)時にプロダクトIDを入力していただきます。プロダクトIDは製品固有の24桁の数字で、同一のプロダクトIDは存在しません。1つの製品を複数のコンピュータにセットアップされた場合、2台目以降では、別のプロダクトIDを入力されるまでプログラムの起動ができなくなります。2台以上のコンピュータにプログラムをセットアップする場合は、使用するコンピュータ分のプログラムが必要です。

プロダクトIDが記載されたラベルは、CD-ROMのケースに貼られます。詳細は改版商品に同梱のご案内(手順書)をご参照ください。

#### 【著作権・使用許諾契約について】

プログラムを使用するには、著作権法及び使用権許諾契約により、1台のコンピュータにつき1ライセンスの使用許諾が必要です。